

5. 地域における連携力育成事業

日本工業大学が所在する宮代町を舞台として、専門職のみならず、行政、民間企業、地域住民も対象とした地域における連携力育成に向けた取り組みを、主に日工大のsaipeメンバーが担当して進めている。

2017年に取り組みを始め、2021年からは定常的な活動として、**認知症の方とご家族が安心して暮らせる地域づくり**（認知症まちづくり）に関する取り組みを行っている。職種や立場を超えて多くの人が当事者意識を持ち、目的を共有しやすいことを旨としてテーマ設定をした。近い将来、認知症のある方が人口の中で高い割合を占めていくことが見込まれており、**買い物や、交通機関の利用など日々の営みを認知症のある方がスムーズに行える物理的・社会的環境整備**は、サービスの提供者、他のサービス利用者にとっても重要なことである。**その環境整備を行政、民間、NPO団体、町内で暮らす人の協働で行い、その過程での「連携力」の醸成**をめざしている。その「連携力」は、地域で暮らす全ての人が享受し得るものと考えている。

具体的には、宮代町役場、宮代町社会福祉協議会、宮代町立図書館、日工大saipeメンバーが月1回を基本とする定例ミーティングを行いながら、「認知症まちづくり」に関する取り組みを企画・実施している。

《2024年度の取り組み》

●定例ミーティング

第1～6回（4月～10月）は2つの「認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展」についての検討とふり返しを行い、第7～10回（11月～3月）は今後の活動の指針の検討と今年度のふり返しを行った。

●認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 vol.6 「あしたのわたしと認知症」

9月22日（日）～10月14日（月） 会場：宮代町立図書館

2022年度から開催している、宮代町立図書館を会場とした、パネル展示、講演会、映画上映会等を行う行事である。認知症と「認知症まちづくり」に関する理解を深め、広めることを目的とする。パネル展示では、「**認知症基本法**」の概要（2024年1月施行）、**認知症予防に関する知識、「認知症まちづくり」のために一人一人ができること、町および社会福祉協議会の取り組み等**を紹介した。図書館を会場とした企画ならではの工夫として、各トピックの関連書籍の紹介が添えられた。認知症に関する本を集めたブックコートも展示された。9月23日に、認知症を抱える妻とそれを支える夫の2人の暮らしを描いた映画「記憶の葉っぱ」の上映会、10月14日に、**日工大の野口祐子先生を講師とした講演会「認知症の人も当たり前に出外できるまちづくりーパブリックトイレの研究ー**」を開催した。

図書館は、町内で最も多く、長く高齢の方が滞在する場所であり、多くの方々が展示を観てくださった。小中学生から募集した、お年寄りとの思い出を描いた絵手紙の展示を行ったことで、若い世代の訪問も得られた。

●認知症にフレンドリーな社会に向けた合同展 vol.7 「宮代で共に暮らし共に創る講演会」

9月28日（土） 会場：宮代町立コミュニティセンター進修館

健康介護コンシェルジュ等30以上の資格を持つ、三遊亭楽春さんを講師として、「笑いは健康の良薬」と題する、落語を交えた講演会を開催した。**町内の生活支援団体の紹介と、その担い手募集の告知**も行われた。

●ゆっくりおしゃべり食事会

卒業計画の一環として町内の「**通いの場**」づくりに取り組む学生を中心に、日工大の野口祐子研究室が**企画・運営**したものである。今年度から開始し、**町内の食堂で1回、大学の学食で4回、合計5回開催**した。認知症のある方とその家族を含む町内の高齢者、学生、大学の教職員、町役場及び社会福祉協議会、地域包括支援センターの職員など各回20～30人の参加があり、参加者から好評を得た。**町の職員が血圧測定・健康相談**を行う回もあった。町内の関係機関からも継続の要望があり、2025年度の継続実施を模索中である。

《今後の取り組み》

これまでの取り組みは認知症や「認知症まちづくり」への理解の普及に関する取り組みが中心であった。その間、町・社協・図書館・大学の連携が強化されていったことは大きな成果であるが、今後は、**当事者とそのご家族、民間の事業者、地域住民との連携に向けた具体的な取り組み**を展開していきたい。



「あしたのわたしと認知症」
会場の様子



「あしたのわたしと認知症」
展示パネルと配布物



「宮代で共に暮らし共に創る
講演会」



「ゆっくりおしゃべり食事会」
第5回（3/26）の様子